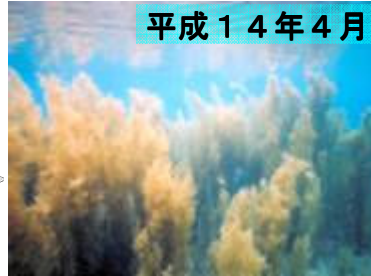
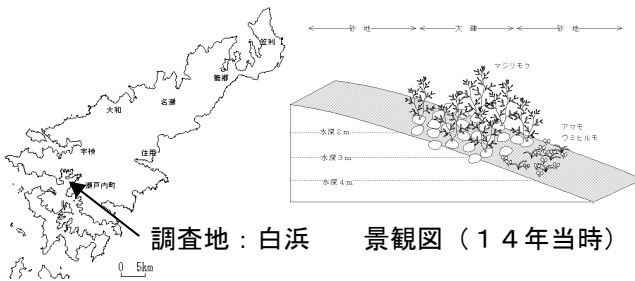


# 奄美大島における階段藻礁を用いた藻場造成

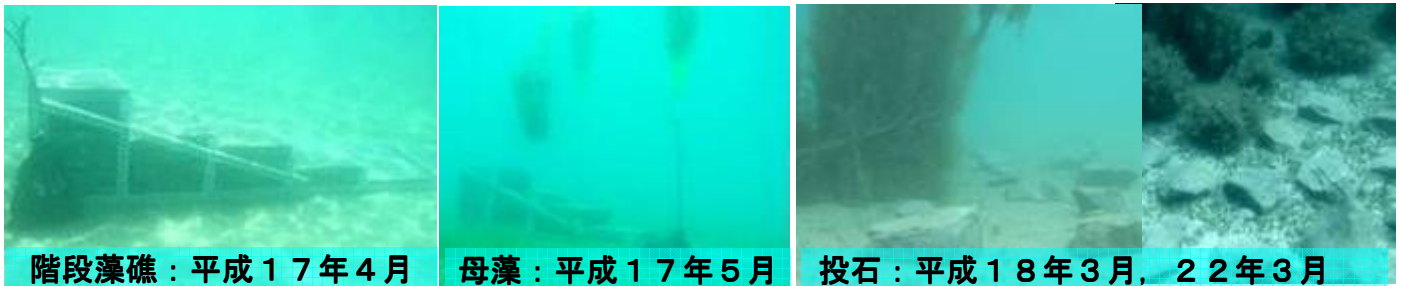
漁場環境部 研究専門員 吉満 敏

**目的** 奄美大島におけるガラモ場(ホンダワラ類による藻場)造成手法を開発する。  
 試験地の瀬戸内町白浜は大島海峡の内湾に位置し、砂地に礫場が広がることから、藻体の着生基質となる礫等が砂に埋没し、基質不足が藻場形成の制限要因の一つになっている。このため、埋没に強い階段藻礁を設置して、海藻の生育や藻場造成手法について調査した。

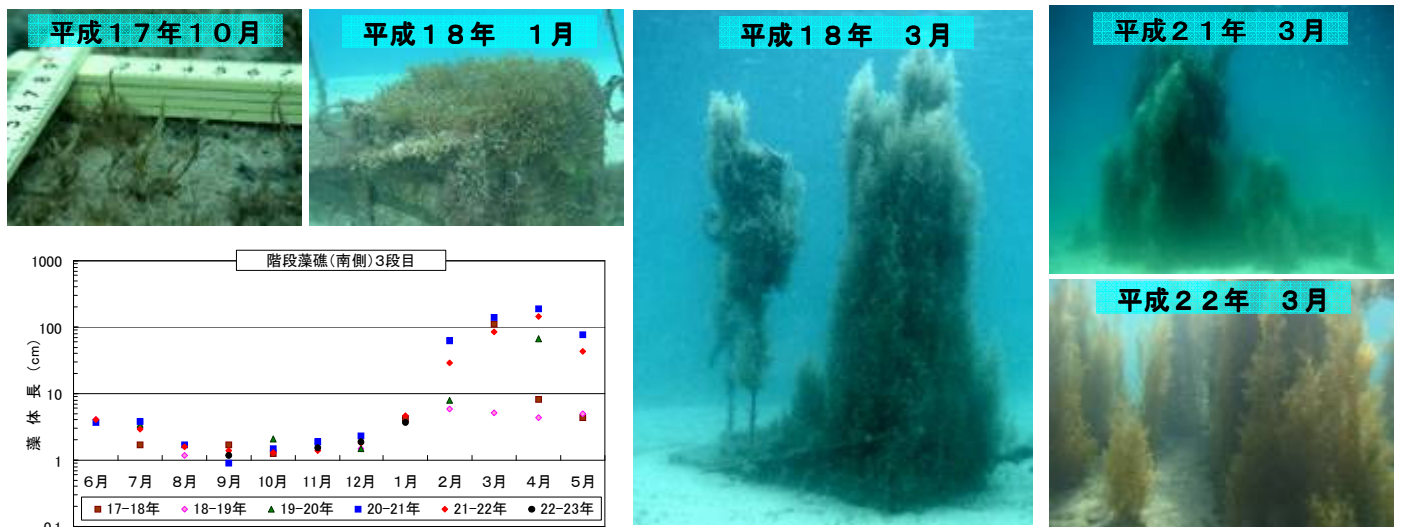


## 試験内容及び方法

平成17年4月に水深2mの砂地に階段藻礁を設置した。  
 同年5月にスポアバック方式により母藻を投入し、幼胚を供給した。  
 平成18年3月、22年3月に藻礁周辺に投石を行い藻場の拡大を試みた。  
 調査は概ね毎月1回行い、芽数や藻長等を測定した。



**結果** 17年7月には、100株/100cm<sup>2</sup>を超える15mm程の発芽体(幼胚)を確認し、10月に2cm、翌年1月に6cmとなり、3月には100cm前後に伸長した。食害を受けた年もあるが、概ね3~4月に最も伸長し、その後は枯死流出(枯れて消失)した。  
 階段藻礁周辺への基質投入により群落が拡がり、藻場らしい景観となった。



**考察** 階段藻礁は最下段は埋没したが、上部4段は毎年繁茂し、核藻場の機能を有した。内湾域の当地においては、階段藻礁及び基質投入による藻場造成法が有効と考えられた。ただし藻場の維持には藻礁及び周辺基質の管理(堆積物除去、幼胚追加等)が必要である。